

果樹の雪害防止対策に関する情報（第6報）

秋田県果樹試験場

1 消雪の状況

3月27日現在、県南部の積雪深は49cmであり消雪が進んでいる。

主幹周りは根開けして地面が見え始め、枝の折損や野その被害が確認されている。更に、ブドウなど柵施設の復旧が必要なところもある。

折れた主枝や側枝は、復旧可能なものは、早めに処置するほど回復が早いため、早急に取りかかる。

3月22日発表の東北地方1か月予報では、東北日本海側は平年より気温は高い見込みであり、発芽が早まることが予想されている。芽出し後の防除などが遅れないように計画的に作業を行う。

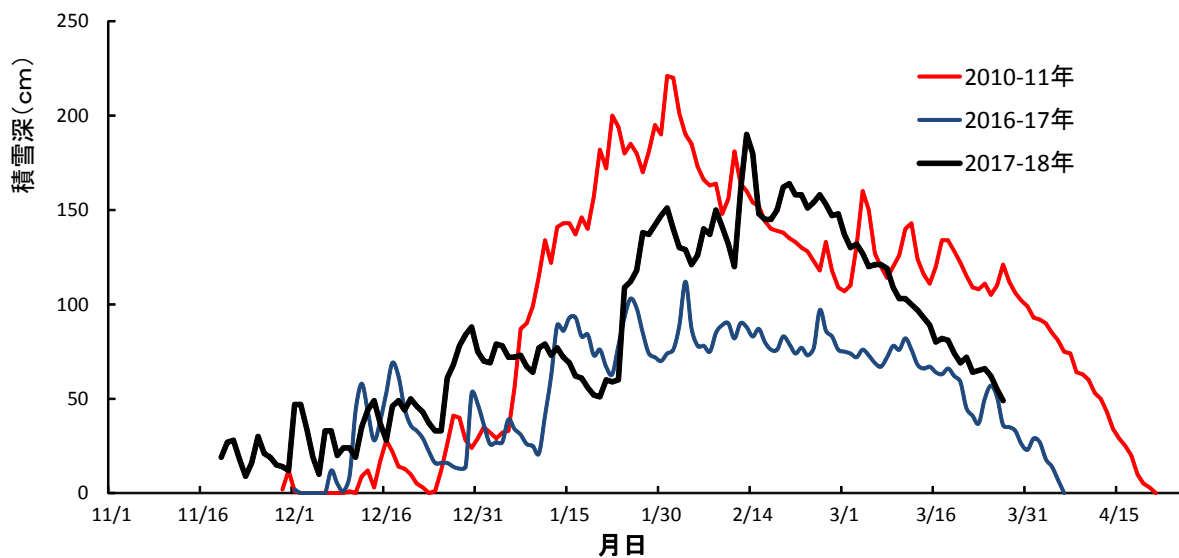


図1 積雪深の推移（果樹試験場本場横手市）



図2 リンゴおい性台樹の側枝欠損被害
(3月5日)



図3 リンゴ主幹地際の野その被害

2 雪害復旧対策（詳細は果樹試験場ホームページ雪害復旧マニュアル参照）

①リンゴ被害樹の復旧方法

○マルバ台樹

主枝、垂主枝などの大枝の損傷は、木質と皮部の1/3以上残っていれば回復可能である。裂開部は木質部を整形して密着するように接合し、カスガイやボルトでとめる。太枝の場合は、風や着果によって再び裂開しないように必ず支柱を入れ補強する。

○おい性台樹

樹齢と側枝の欠損程度に応じた復旧を行う。

樹齢7年生以上で側枝の折損被害が3割以内であれば変則主幹形に樹形を誘導し立て直しを図る。4年生以下で側枝欠損割合の多いものは、地上高80cm程度まで切り返し、発生した新梢（主幹）にビーエー液剤を散布し、副梢（側枝）を同時に育成するカットツリー法で復旧する。樹齢5～14年生では主幹を地上高80cm程度まで切り返し、高接ぎして再生する主幹高接ぎ法を実施する。

②ブドウ被害樹の復旧方法

幼木での主幹部の折損は、折損部位の下方にある芽の直上で切り戻して主幹を作り直す。

若木や成木では、片側の主枝が欠損した、あるいは主枝分岐部が裂開した場合は、損傷箇所をきれいに切り取り、傷口に塗布剤を塗る。その後は残った主枝の返し枝などで棚面を埋めていく。主幹の真ん中でほぼ均等に割れている場合は、養水分の供給が遮断されないので、主枝を引き寄せ、被害部位を密着させてカスガイ等で固定する。被害部位に塗布剤を塗ったら、ロープ等で締め付け、水が浸入しないよう肥料袋等で覆い保護する。

③モモ被害樹の復旧方法

モモは他の樹種に比べて傷に弱く、主幹部や主枝に裂傷を負った場合は枯死する可能性が高い。主幹部や主枝の傷の大きさが、幹周の1/3を超えている場合は伐採する。軽微な場合は、傷口をきれいに切り取り、塗布剤を塗る。

④オウトウ被害樹の復旧方法

オウトウでは主枝など大きな枝の損傷は少なく、側枝や結果枝が折損している被害が中心である。被害枝はきれいに切り取り、塗布剤を塗る。被害を受けた枝で、樹皮の裂開が2/3以下であれば、枝をつり上げて固定し、塗布剤を塗ることで当年の利用は可能である。

⑤傷口の保護

どの樹種でも、雪害の傷口は不整形で、枝の枯れ込みやふらん病などが発生しやすい。傷口にカルスの形成を促すため、傷口はできるだけきれいに整え、トップジンMペースト等を塗布する。

3 野そ対策

今冬はリンゴやモモなどで野そによる食害が非常に多くみられている。被害拡大を防ぐとともに、被害を受けた木の処置を適切に実施する。

①枝の掘り上げと幹周りの管理

まだ下枝が雪に埋もれている場合は早急に掘り上げる。除雪と消雪剤の利用で消雪を促し、早めに地際を露出させる。また、剪定枝は幹周りに散らかさないで、できるだけ離れた場所にまとめておく。

②そ穴への殺そ剤投入

消雪後は根を標的にするので、密度低下対策が必須である。殺そ剤は水に濡れると効果が劣

る。消雪直後は地面が濡れていることが多いので、防水加工された小袋詰めofラテミンリン化亜鉛1%（リン化亜鉛粒剤）またはヤソジオン（ダイファシン系粒剤）などを使用する。

③捕殺

餌となるものが少ない時期なので捕殺の効率が良い。リンゴなどの果実が用意できる場合は、ネズミとり器やネズミかご、粘着板などを使って捕殺する。食害された木の近くにそ穴を探して罠を設置し、リンゴ箱で罠ごとそ穴を覆う。餌は新鮮なものが良いので適宜交換する。

④被害樹の処置

主幹部など太枝が食害された場合、幹周の1/4以上残っていれば回復が見込まれる。塗布剤を塗るかテープを巻いてカルス形成を促す。傷口が広い場合は家庭用ラップを厚めに巻いてもよい。食害の範囲が大きく、回復する見込みが少ない時は、切り戻しや主幹高接ぎを行うか、植え替えを検討する。

4 剪定、野そ対策、防除など春作業の計画見直しを！

3月26日現在リンゴ「ふじ」の発芽日は4月9日（果樹試験場横手市）と予想され、平年より1日遅いだけである。消雪日も同日と予想されているが、今後天気のよい日が続くと生態が早まり、消雪を待たずに発芽することも予想される。

発芽、展葉期に黒星病、うどんこ病などの防除を予定しているところでは、消雪後まもなく散布を実施することになるので、剪定作業も1回目の薬剤散布の予定を確認して早めにすすめる。剪定作業が終了しなくても枝を寄せてスピードスプレーヤーの通行路を確保して対応する。

果樹の雪害防止に関する情報は今回をもって終了します。今後は発芽や開花に関する情報をご覧ください。